

1. 略歴

- 1998年4月 東京大学教養学部 文科三類入学
2002年3月 東京大学文学部思想文化学科 倫理学専修課程卒業
2002年4月 東京大学大学院人文社会系研究科基礎文化研究専攻 倫理学専門分野修士課程入学
2005年3月 同 修了
2005年4月 東京大学大学院人文社会系研究科基礎文化研究専攻 倫理学専門分野博士課程進学
2008年3月 同 単位取得退学
2008年4月 日本学術振興会特別研究員 (PD) (～2011年3月)
2011年2月 博士号 (文学) 取得 (東京大学)
2013年4月 新潟大学人文社会・教育科学系 准教授 (～2017年3月)
2015年4月 放送大学客員 准教授
2017年4月 専修大学文学部 准教授
2019年4月 東京大学大学院人文社会系研究科 准教授

2. 主な研究活動

a 主要業績

(1) 博士学位論文

「何が真理という概念を構成するのか——ウィトゲンシュタインの人間論研究に向けて」、2011年2月17日、東京大学大学院人文社会系研究科

(2) 単著

- 『それは私がしたことなのか——行為の哲学入門』新曜社、2013年8月、全262頁
『言葉の魂の哲学』講談社 (選書メチエ)、2018年4月、全249頁
『ウィトゲンシュタイン 論理哲学論考』KADOKAWA (角川選書)、2019年4月、全360頁
『不道徳的倫理学講義』筑摩書房 (ちくま新書)、2019年5月、全368頁

(3) 共著

- 『現代哲学の名著——20世紀の20冊』(熊野純彦編) 中央公論新社 (中公新書)、2009年5月 (『ウィトゲンシュタイン 論理哲学論考』46-55頁、および「大森荘蔵『言語・知覚・世界』66-75頁を担当)
『日本哲学小史——近代100年の20篇』(熊野純彦編) 中央公論新社 (中公新書)、2009年12月 (「大森荘蔵「ことだま論」170-177頁を担当)
『科学技術の倫理学』(勢力尚雅編) 梓出版社、2011年3月 (第1章「科学技術はなぜ倫理の問題になるのか」、コラムI-1「科学技術は科学の応用なのか?——〈科学技術〉と〈科学・技術〉」、コラムI-2「個人の倫理の限界——社会心理実験が示すもの」以上、3-39頁を担当)
『近代哲学の名著——デカルトからマルクスまでの24冊』(熊野純彦編) 中央公論新社 (中公新書)、2011年5月 (「バークリ『人知原理論』48-57頁を担当)
『道の手帖 ウィトゲンシュタイン』(飯田隆 他 著) 河出書房新社、2011年6月 (「著作解題 ウィトゲンシュタイン『哲学探究』『心理学の哲学』『反哲学的断章』『ウィトゲンシュタイン哲学宗教日記』100-106, 114-120頁を担当)
『感性学——触れ合う心・感じる身体』(栗原隆編) 東北大学出版会、2014年3月 (第III部「心と身体そして言葉」第7章「心は「存在する」のか: 感覚と感情をめぐるウィトゲンシュタインの議論から」127-150頁を担当)
『科学技術の倫理学II』(勢力尚雅編) 梓出版社、2015年3月 (第三章「科学技術化した社会の責任主体」66-91頁を担当)
『経験論から言語哲学へ』(勢力尚雅氏との共著) 放送大学教育振興会、2016年3月 (第8-14章152-258頁、第15章後半271-275頁を担当)
『これからのウィトゲンシュタイン——刷新と応用のための14篇』(荒畑靖宏・山田圭一氏との共編) リベルタス出版、2016年12月 (序論9-16頁、第8論文「形態学としてのウィトゲンシュタイン哲学——ゲーテとの比較において」135-152頁を担当)

(4) 翻訳

ジグルト・パウル・シャイヒル「カール・クラウスをめぐる論争」『思想』第1058号、岩波書店、2012年6月、196-211頁

デイヴィッド・ウィギンズ『ニーズ・価値・真理——ウィギンズ倫理学論文集』（大庭健／奥田太郎・監訳）勁草書房、2014年7月（第三章「真理、発明、人生の意味」139-232頁、訳者解題315-328頁を担当）

コーラ・ダイヤモンド編『ワイトゲンシュタインの講義 数学の基礎篇——ケンブリッジ1939年』（大谷弘氏との共訳）講談社（学術文庫）、2015年1月、全624頁

ルートウィヒ・ワイトゲンシュタイン『ラスト・ライティングス』講談社、2016年5月、全514頁

(5) 論文（全て単著）

「人間的自然とは何か——言語の習得をめぐるワイトゲンシュタインの考察から」『倫理学年報』第55集、日本倫理学会、2006年3月、113-127頁

「科学の時代の信仰——宗教的信念に関するワイトゲンシュタインの議論に即して」『倫理学紀要』第14輯、東京大学大学院人文社会系研究科倫理学研究室、2006年3月、64-89頁

「カール・クラウスにおける〈言葉の形態〉と倫理」『倫理学紀要』第15輯、東京大学大学院人文社会系研究科倫理学研究室、2008年3月、62-82頁

「言葉を選び取るとはどのようなことか——20世紀前半ウィーンの思考圏から」『平成17年度～平成19年度科学研究費補助金・基盤研究(B)「倫理学の文化形態論的研究」成果報告書』、2008年3月、229-254頁

「生死をめぐる極限的事例が示すもの——生命倫理の問題設定と解決のあり方に関する一考察」『死生学研究』第11号、東京大学大学院人文社会系研究科、2009年3月、249-272頁

“What is “Human Nature”? Wittgenstein's Treatment of Language Acquisition”, *Special Issue of the Annals of Ethics*, Vol.1, Japanese Society for Ethics, Dec. 2009, pp.79-92

“The Bastille of Subjectivity: On the Monism of Shozo Omori”『倫理学紀要』第17輯、東京大学大学院人文社会系研究科倫理学研究室、2010年3月、1-12頁

「バーナード・ウィリアムズ「道徳的運」——要約と読解」『行為論研究』（平成21年度科学研究費補助金・基盤研究(C)「共同行為の責任と倫理に関する学際的研究」研究成果報告書、第1巻）行為論研究会、2010年3月、109-127頁

「言語の共同性と個性の間——「言葉の表情」という観点から」『理想』685号、理想社、2010年9月、73-84頁

「知覚の概念主義の行方」『共生の現代哲学』（UTCPブックレット18）、東京大学グローバルCOE 共生のための国際哲学教育センター、2011年2月、33-56頁

「「共同行為」とは何か——プラトマンの定義の批判的検討を通して」『行為論研究』（平成22年度科学研究費補助金・基盤研究(C)「共同行為の責任と倫理に関する学際的研究」研究成果報告書、第2巻）行為論研究会、2011年3月、1-35頁

「共同行為の構成条件」『哲学』第63号、日本哲学会、2012年3月、210-224頁

「言葉の絵画的性——デイヴィドソンのメタファー論再考」『人文科学研究』第8巻、お茶の水女子大学、2012年3月、1-12頁

「言葉の溶流に抗して——カール・クラウスの言語論」『思想』第1058号、岩波書店、2012年6月、262-279頁

「文化に入り行く哲学——デイヴィドソンの言語哲学の限界をめぐる」『フィルカル』Vol.1 No.1、2016年3月、112-140頁

「半透明な心——他者とともにあることの悲劇、あるいは救いをめぐって」『at プラス』第31号、太田出版、2017年2月、20-33頁

「共同行為の問題圏」『現代思想』2017年12月臨時増刊号（vol.45-21）、青土社、2017年11月、222-234頁

「現代の英米圏の倫理学における運の問題」『社会と倫理』第32号、南山大学社会倫理研究所、2017年11月、3-14頁

(6) 口頭発表（全て単独）

「相対性は如何にして語りうるのか——現代の相対主義批判の再考」日本倫理学会、日本倫理学会第56回大会、岡山大学、2005年10月

「当座理論と公共言語」日本哲学会、日本哲学会第66回大会、千葉大学、2007年5月

“From Representation to Aspect : A phase of the Japanese Reception of Wittgenstein's Thought”, International Conference "Personality and Subjectivity: East and West", Université Blaise Pascal, Clermont-Ferrand, France, Dec. 2009

「言葉の意味とは何か」という問題を巡るいくつかの見解について」お茶の水女子大学リサーチフェロー等研究発表会、お茶の水女子大学、2009年3月

「デイヴィッドソンのメタファー論再考」上智大学哲学科若手研究者交流会、上智大学、2010年6月

“Beyond the Veil of Words” University of Hawaii at Mānoa Philosophy Department Colloquium, University of Hawai'i, Honolulu, USA, Oct. 2011

“Omori Shozo, Phenomenalism, and Anti-Representationalism”, The 6th BESETO Conference of Philosophy, The University of Tokyo, Tokyo, Japan, Jan. 2012

「過失という概念の不具合について——行為の哲学の一断面」CAPE ワークショップ：若手研究者による国際ワークショップ「Action, Emotion, and Morality」、京都大学大学院文学研究科 応用哲学・倫理学教育研究センター (CAPE)、2014年3月

「行為と行為でないものの境界」第16回 新潟哲学思想セミナー(NiiPhiS)、新潟大学、2014年4月

「ゲーム、嘘、演技——ウィトゲンシュタインにおける human nature」ネットワーク日本哲学 第五回研究会、京都大学、2015年3月

「“やってしまった” から始まるコミュニケーション——企業・団体による“謝罪”を題材として」講演会「科学技術者・組織とイノベティブ・コミュニケーション」、三菱電機 ビジネス・マネジメント部会・知的生産力専門部会、三菱電機本社、2015年3月

「言葉を解放する哲学——ゲーテとウィトゲンシュタインの学問的方法論の比較から」科学研究費補助金基盤研究(C)「「単元を貫く言語活動」を支える言語観と授業づくりに関する研究」主催・公開研究会、立教大学、2016年7月

「現代の英米圏の倫理学における運の問題」日本倫理学会第67回大会・主題別討議「倫理学における運の役割」、早稲田大学、2016年10月

「共同行為論の射程——分析系の議論を中心に」日本現象学会第39回研究大会・シンポジウム「共同行為の現象学——現象学と現代行為論の接点を探る」、大阪大学、2017年11月

(7) その他 (全て単著)

書評論文「「ウィトゲンシュタイン的独我論」の構造と意義——永井均著『ウィトゲンシュタインの誤診——『青色本』を掘り崩す』について」『科学哲学』巻47(1)、日本科学哲学会、2014年7月、53-66頁

書評『哲学探究』(ルートヴィヒ・ウィトゲンシュタイン著、丘沢静也訳)『科学哲学』巻47(2)、日本科学哲学会、2014年12月、107-109頁

エッセイ「絶対的価値と相対的価値——宇宙開発の意義についての一視点」『人文・社会科学研究活動報告集 2015年までの歩みとこれから』(宇宙航空研究開発機構特別資料 JAXA-SP-15-017)、2016年3月、133-144頁

エッセイ「「犬は嘘をつかない」は本当か? “ひらめき”を引き寄せる方法——ウィトゲンシュタインの言葉に学ぶ」『現代ビジネス』(<http://gendai.ismedia.jp/articles/-/49117>)、2016年7月

エッセイ「運と道徳——倫理学のありようをめぐる」『現代思想』vol.45-18、青土社、2017年9月、246頁

(8) 受賞

2006年10月 和辻賞 (日本倫理学会学会賞)

3. 主な社会活動

(1) 非常勤講師

東京理科大学理学部 (2008年11月～2009年3月)、日本大学理工学部 (2009年4月～2013年3月)

お茶の水女子大学文教育学部 (2009年10月～2013年3月)、電気通信大学情報理工学部 (2012年4月～2013年3月)

日本女子大学人間社会学部 (2012年4月～2013年3月)、青山学院大学 (2012年9月～2013年3月)

上智大学文学部 (2012年9月～2013年3月)

(2) 学会

日本倫理学会 会員 (2005年4月～)

同学会 事務局幹事 (2011年4月～2012年3月)

同学会 監事 (2017年4月～2019年3月)

同学会 評議員 (2019年4月～)

日本哲学会 会員 (2006年5月～)

同学会 男女共同参画・若手研究者支援ワーキンググループメンバー (2013年8月～2015年8月)

実存思想協会 会員 (2017年10月～)